

イマズスルフロン・  
フェントラザミド・プロモブチド粒剤

農林水産省登録 第21602号  
性 状：類白色細粒  
毒 性：普通物  
危 険 物：—  
有効年限：5 年  
包 装：1kg×12、4kg×4

# ドニチ® S 1 キロ粒剤

有効成分：イマズスルフロン……………0.90% フェントラザミド(PRTR・1種)……………3.0%  
プロモブチド……………9.0%



こちらのバーコードをスマートフォン等で読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の新しい情報をご覧いただけます。また、詳しい読み取り方・最新情報については11頁をご覧ください。

## 〔適用と使用方法〕

作物名	適用雑草名	使用時期*	適用土壌	10アール 当り 使用量	総使用回数*	適用地帯	使用方法
移植 水 稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ (北海道を除く) ヘラオモダカ (北海道、東北) ヒルムシロ セリ シズイ(東北) オモダカ (近畿・中国・四 国) クログワイ (東北、関東・東 山・東海、近畿・ 中国・四国) コウキヤガラ (関東・東山・東 海) アオミドロ・ 藻類による 表層はく離	移植時	砂壤土 ～ 埴土	1kg	本 剤：1回 イマズスルフロン：2回 フェントラザミド：1回 プロモブチド：2回	全域の普通期及 び早期栽培地帯	田植同時散布機で施用
	移植直後～ ノビエ 2.5葉期 ただし、 移植後 30日まで	湛水散布					
直播水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ セリ	稲1葉期～ ノビエ 2.5葉期 ただし 収穫90日前 まで				全域	ヘリコプターによる散布 湛水散布又は無人



## 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせて秤量し、使いきる。
- 主要雑草に対する散布適期幅

ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ へらオモダカ シズイ オモダカ	2葉期まで " ( * ) 2葉期まで " (東北は発生始期まで) 草丈3cmまで 発生始期まで	クログワイ コウキヤガラ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	発生始期まで 発生始期まで 発生期まで 再生前～再生始期まで 発生前
---	---	--	--

\*北海道、東北、北陸、関東・東山・東海は発生始期まで

- 雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失しないように散布する。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するようにする。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のもものでは十分な効果を示さないで、有効な後処理剤との組み合わせで使用。
- 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないように適期に散布するよう注意する。
- 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守る。
  - 散布は散布機種種の散布基準に従って実施する。
  - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
  - 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整する。
  - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m離れた位置からほ場内に散布する。
  - 水源池、飲料水等に本剤が流入しないように十分注意する。
- 直播水稲で使用する場合、イネの根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので注意する。
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）で、まきむらが生じないように均一に散布する。また、極端な浅水や深水での使用はさける。
- 散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。また、入水は静かにおこなう。
- 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなう。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなう。
- 砂質土壌の水田や漏水の大きな水田（減水深2cm/日以上）、極端な浅植えの水田及び軟弱苗を移植した水田では使用しない。
- 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので使用はさしひかえる。
- 本剤は、移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用する。
- 散布田の田面水を他の作物に灌水しない。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には十分に注意する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



## 安全使用上の注意

- 眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける（刺激性）。
- 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意する。
- 散布後は水管理に十分注意する。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。  
12頁記載の注意事項、(1)、(2)、(3)、(4)－E も合わせてお読み下さい。

## 〔品目特性〕

- イマゾスルフロンに、ノビエに対し高い効果を示すフェントラザミドと、ホタルイなどのカヤツリグサ科雑草に安定した効果を示すプロモブチドを混合した初・中期一発処理除草剤です。
- 長い残効性  
ノビエなどに残効期間が長く、通常の使用条件下で約50日以上抑草期間があります。特にノビエの後次発生が問題となる地域（寒地・寒冷地など）においても効果が持続します。
- 田植直後（田植同時）から使用できる。  
通常の条件下では水稲に対する安全性が高いため田植直後から使用できます（北海道除く）。そのため田植同時散布機（「こまきちゃん」や「GS-1」など）を使用した省力的な散布方法である「田植同時散布」も可能です。
- 広範囲の雑草に対して高い除草効果  
ノビエをはじめとする水田一年生雑草からマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリなどの多年生雑草に高い除草効果を示します。また、アオミドロ、藻類による表層はく離にも効果が認められます。
- 広い散布適期幅  
田植直後（北海道は移植後5日）からノビエの2.5葉期まで、いずれの時期の使用でも高い効果が得られます。